オギジビ新聞

第100号
発行人：おぎはら耳鼻咽喉科
相模原市南区古淵1-6-11 K‘S ビル3階　042-750-3387

11月

「オギジビ新聞　第100号記念特集号！」

2020年5月1日、おぎはら耳鼻咽喉科がこの古淵の地に開院しました。あっという間に６年の歳月が経過し、街に馴染んできたように思います。開院当初から院長が細々と作成してきたこのオギジビ新聞も、ついに100号を迎えました！季節ごとの耳鼻科的な話題や、皆様の健康増進に少しでもお役に立てればいいなと思う内容をお届けしています。診察待ちのちょっとした時間に、暇つぶしに読んでいただけると幸いです。また、オギジビのホームページにも同じものがアップされていますので、気になる方はぜひご覧くださいね。さて、今回は100号発刊に寄せて、オギジビスタッフにひとことずつコメントをもらいました。それぞれの個性も併せて、お楽しみください。

- 初めての就職先が「オギジビ」で本当に良かったと、心から思っています！　（若手のエース　Hさん）
- オギジビ新聞100号おめでとうございます！補聴器のことは詳しいけれど、他の疾患についてはよく知らないので、へえーと思いながら読んでいます。ちなみにSTが作成する「カスタネット通信」は11月で通算78号です。100号に至るのは2年後くらいですね。その頃オギジビ新聞は150号？一緒に記念号を出しましょう（ベテランST　Rさん）
- 100号のときにここにいられてよかったー。200号も元気でいられますように（愛される出世頭　Aさん）
- 6年以上、毎月発刊。100号も書くネタが尽きないなんてスゴイ…と思ってます（影の院長　Rさん）
- 100号おめでとうございます。振り返って読みたいです。私が入職した時に記事になってうれしかったことを思いだします（オギジビのメジャーリーガー　Mさん）

おぎはら耳鼻咽喉科

オギジビ豆知識

院内の飾り付けを、季節ごとに変えています。中待合室の飾り付けは、スタッフが交代で担当し、担当者の指示のもとにみんなで手作りをしています。一部は、院長が作ることもあります。広い待合室のオギジビ文庫のコーナーは、言語聴覚士が担当しています。6年続けているので、折り紙の腕なども上がっているようです。診察やリハビリの待ち時間に、楽しんでいただけているようです。

これからも、リラックスできる空間を目指して、みんなでがんばります。

オギジビの輪

- お友達・お知り合いに、是非おぎはら耳鼻咽喉科をご紹介ください。
- 神奈川県では珍しい、言語聴覚士のいる耳鼻咽喉科です。難聴や補聴器については大学病院レベルの診察・検査体制を整えています。
- ちょっとした不安の解消から専門的な診察まで、幅広く行っています。